

令和7年度 昭島市立共成小学校 学校経営方針

令和7年4月
校長 森本 弘子

1 基本理念

教育者としての自信と誇りをもって、全教職員で心を一つに、同じ目的に向かって共成小学校の教育活動を進めていきましょう。

心と体の健康・人権・安全

学校は、子供の尊い命と無限の可能性を預かっています。子供たちが安心して自己実現を目指せる場所でなければなりません。この3つは学校として大切にしなければならない大原則です。この3つが保障されている場でこそ、子供たちの学び、成長があります。

【生きる力】 変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の知・徳・体をバランスよく育てることが大切

- 基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力
- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- たくましく生きるための健康や体力

「昭島市教育振興基本計画」(令和4年度～令和8年度)に基づく教育を推進する。

昭島市教育委員会テーマ「楽しい学校づくり」 「学校教育の基本方針」より

- ・ 確かな学力の定着
- ・ 豊かな心の醸成
- ・ 健やかな体の育成
- ・ 輝く未来に向かって

学ぶことが楽しい学校 教えることが楽しい学校

2 共成小学校の教育目標

・ 助け合う子 ○ 考える子【重点目標】 ・ きたえる子

3 学校経営方針の方向性～『全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現』～

一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、価値のある存在として尊重され、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手なることができるようにする。

4 学校経営基本方針

「たくましさ・しなやかさ」をもって
未来にはばたいていく共成っ子の育成

挑戦

安心基地

「たくましさ」…自尊感情をもち、自己選択・自己決定し、未来志向で自己を高めようとする力
「しなやかさ」…今の自分や多様性を受け入れ、理解し、柔軟に対応し、協働できる力

学校経営スローガン

心に太陽!みんなとつながる共成小

5 学校が、教室が、私たちが児童の「安心基地」であるために

「安心基地」は、信頼できる人が、常にそこにいてくれるという日常の中で成り立ちます。

「自分のことを気にしてくれている」あるいは、「自分のことをわかってくれている」という安心感に包まれるような教師としての愛あるかかわりを日常的に心がけましょう。

(1) 教師の役割

- ① 教師が児童とつながる…できないことではなく、できていることに注目してつながる（言語化して認める）。
- ② 児童と児童をつなげる…お互いを理解する、よさを認め合える場の設定
- ③ 児童をその子自身とつなげる…自分の良さを自覚する（認められてこそ意欲がわきでる）
得意なこと、苦手なことがある、それが「個性」自己肯定感の醸成を。

学級経営は、「つながる力」の存在に気付かせたり、それを身に付けさせたり、それを実践させたり、その良さを実感させたりしていく場。

ここで生まれた「つながる力」は、子供たちが社会に出たときに、自分らしく生きる上で、役立つ力となるはずです。そう信じて日々子供たちと向き合っていきましょう。

(2) 「児童理解」について、共通認識で。

児童の不適応の中には、実は大人側や周囲の無理解や誤解が影響していることもあります。

- ① 児童を変えようとするのではなく、自分を柔軟に変える。
- ② 大人側の都合で定められた枠組みに無理に当てはめようとしない。
- ③ 思い込みや先入観のもとに行われてきたこれまでの「児童理解」を見直す。
- ④ 実態や能力を超えた過度な期待や要求を課さないようにする。スモールステップで！

先生の笑顔が何よりも大切。

西洋のことわざ Smile is a medicine with no side effects.

（笑顔は、副作用のない薬）

Laughter is the best medicine.

（笑いは、最良の薬）

笑顔を決やさない先生がそこにいてくれる。

（そのままでもいいんだよ）と肯定してくれる。

⇒「安心基地」



安心して、自己決定、主体的な行動ができる。



学校教育目標 ◎考える子 助け合う子 きたえる子

たくましさ

自己決定・自尊感情・自己実現

「たくましさ・しなやかさ」をもって

未来にはばたいていく共成っ子の育成

しなやかさ

自己受容・他者理解・協働意識

学校経営スローガン

心に太陽！みんなとつながる共成小

ハピネス
マインド！

目指す
学校像

- 自律的に学びを進め、「学びの実感」を得られる学校
- 自他を理解・尊重し、「協働意識」をもてる学校
- 体力・健康に関心をもち、「心と体の元気」を感じる学校
- 自己決定しながら、「なりたい自分」を目指す学校

目指す
教師像

- 教師としての愛をもって、温かな教育をする教師
- 子供を信じ、子供の思いを大切にできる教師
- 共成小の教育に貢献する教師（最前線のラストマン）
- マネジメントできる教師（カリキュラム・自己の働き方）

目指す
子供像

- 学ぶ楽しさを知り、自己調整しながら学ぼうとする子供
- 自他を大切に、しなやかに、共に伸びようとする子供
- 心身共に元気でたくましく生きようとする子供
- 「なりたい自分」の実現を目指し、自己決定できる子供

共成プライド
やさしい言葉

共成プライド
あいさつ
ありがとう
アイコンタクト

確かな学力～学びの実感～

- 自己調整しながら学ぶ力の向上
- 「自己選択・自己決定」で意欲向上
- 「協働的な学び」&「振り返り」
- 探究的な学びの充実

豊かな心～協働意識～

- 全児童にとっての「安心基地・居場所」
- やさしい言葉でコミュニケーション
- 互いに認め合い、自他を大切に
にする人権感覚の醸成

やってみよう

内発動機

自己

ハピネス

他者

自分らしく

承認

マインド

理解

ありがとう

未来志向

なんとかなる

- 運動する楽しさの実感と
日常的な運動遊び・外遊びの充実
- 体力向上につながる体育授業改善
- しなやかで折れない心(レジリエンス)

健やかな体～心と体の元気～

- 主体的に学校や学級をより
よくしようとする力の育成
- 温かく、共感的な望ましい学級集団
- ポジティブマインドでチャレンジ！

輝く未来～なりたい自分～

一人一人の出番をつくり、認めて、価値付け、伸ばそう！

学校・学級が「安心基地」QU・特別活動・道徳教育で学級づくり

家庭とのつながり

PTA・ボランティアとの協働
情報共有・連携

特別支援教育の充実

児童理解・効果的な対応
大空・若草との連携

コミュニティ・スクールの活用

地域の一員としての自覚
地域人材の活用

6 指導の重点と具体的方策・評価項目

		中期目標	児童が自律的に学びを進め、「学びの実感」を得られる学校を創造する。	
		短期目標	具体的方策	指導内容・評価項目
確かな学力の定着	児童が自己調整しながら学びを進める力の向上	自己調整学習「学習者が、見通しを立て、学習したことを振り返り、調整しながら学ぶ学習」を理解し、取り組んでみる。	「見通し」…目標設定する・計画立案する 単元のゴールを明確に示す。(モデリング) 単元の学習計画を見童と共につくる。 ↓時間の学習の流れの見える化。	
			「実行」…確認する・調整する 「個」⇒「協働」⇒「個」の流れを意識し、授業構成力・単元構成力を高める。 最後は、児童個々に学びを完成させる 教師の説明は、見える化など工夫して端的に。	
			「振り返り」…評価する・帰属する・適用する 何が分かったかなど各自が学びを振り返り、自覚する時間を確保する。(自己調整学習)	
		児童の「学びたい」を信じ、「答えは、児童の中にある!」と委ねる覚悟	低学年…児童の伝えたいことを代弁。 高学年…児童の発言をつなく。 スライドアウト(広げる) チャンクダウン(深める)	
		学び方の指導	「みんな一緒に学び」、で学習の土台をしっかりとつくる。そこから、学年に応じて、主体的に学びだすためのステップをふむ。(リード・サポート・バックアップ)	
	「自己選択・自己決定」で児童の学習意欲向上	導入の工夫	児童の「やりたい、やってみたい、できそう」を引き出す。 児童の既習学習や体験(潜在)に働きかける問いかけ、問いをもたせる工夫を。(児童から「前に…」がでるように)	
		自己決定してよかった経験	自分で決めて、良かった、うまくいったことを即時評価して価値づける。⇒「次もそうしよう。」という意識が生まれる。	
		日常的に自己選択・自己決定の場を設定	ちょっとしたことから自己選択させる。どの問から進めるのか、どこまで進めるのか、何問解くか、考えを共有する相手を選ぶ、調べる方法を選ぶなど。	
		自分に合った目標を設定する力の向上	学びのペースは多様。子供たちが自分に合った目標を一定ができるように。スモールステップで変容を捉え、できたことを言葉やアイメッセージなどで、伝え、価値付ける。	
	「協働的な学び」の充実で学ぶ楽しさへ	自主・自由学習への挑戦	学年や児童の興味関心に応じて、児童の学びたい学習に取り組ませる。認める場の工夫。何のために宿題を出す?	
多様な他者(他学年や地域との関わり)		発達段階に応じて、地域人材・GTなどを活用した探究的学習や体験活動・ラウンド・スタディによる意見交流など。		
	考えを共有する場の設定	日常的な意見交流・必然性のある話合い。 少人数⇒学級へ、段階的に考えを出せる指導。		



		児童同士の学び合いの場の設定	読み合い…音読で学級の雰囲気づくりを 書き合い…書くことで自問自答できる児童に 聴き合い…相手の話を聞くことができる学級づくりを 話し合い…友達は話を聞いてくれる存在という安心感を人に説明することで自分の学びが確実に、深まる。 「分からない」を声に出せる温かな学級風土を。
豊かな心の醸成	中期目標		児童が自尊感情をもち、「安心基地(安心な環境)」の中で、自他を理解・尊重しながら「協働意識」をもてる学校を創る。
	短期目標	具体的方策	指導内容・評価項目
	全ての児童にとっての「安心基地・居場所」づくり	SOS の出し方指導	年3回心のアンケートの活用、ふれあい月間の取組等で、 援助要請 ができるよう指導。
		いじめ未然防止・早期解決	いじめはいつでもどの子にも起きうるという認識に立ち、児童の小さなサインを見逃さない。(ヒヤリ・ハットの法則) 初期対応が肝心! 「生活指導は鮮度が命!」 すぐに報告。児童の訴えをまずは、受け止め寄り添いながら対応。 児童の心と行動の変容につながる指導を!
		相談しやすい雰囲気	誰にでもいつでも相談できる環境づくり(SOSカード活用) まずは傾聴(相談してよかった。)し、迅速な初期対応。
		個別の配慮・支援の充実	児童の行動の背景を理解して、個に応じた対応を。 児童理解に努める。個々の特性を理解し、児童の困り感に寄り添って支援・配慮を行う。 全ての教員の特別支援教育専門性向上。
	互いに認め合い、自他を尊重する人権感覚の醸成 「こころの太陽」を耀かせる!	友達の良いところ探し	日常的に友達の良いところを伝え合う活動。 P・A や SGE (構成的グループエンカウンター) の活用。 日常的に、ほめ、価値付けることで、他の児童のモデルに。
		感謝を伝え合う関係	「ありがとう」が飛び交う環境づくり。 教師が率先して、「ありがとう」を伝える。
		道徳授業の質の向上	自己を見つめ、考える道徳授業を実践する。 学年の道徳目標・主題にあった思考・学びになるように。 特別講師を招いて2・5年生で「命の教室」を行い、一人一人の心にしっかりと残るよう、振り返る機会をつくる。
		やさしい言葉の浸透(共成プライド)	「やさしい言葉」を豊かにする。言語環境整備 に取組み、児童の人権感覚・言語感覚を磨く。 教師自ら「やさしい言葉」で指導する。教師の指示も、命令口調でなく。
	他者とつながり、協働する喜びの実感	挨拶・ありがとう・アイコンタクト(共成プライド)	「挨拶・ありがとう・アイコンタクト」 が心をつなぐことを継続的に指導する。何かしてもらったら、「ありがとう」が自然に言える学級・学校風土をつくる。
		児童同士の交流による成功体験の積み重ね	同学年同士や異学年交流、行事や日常の学校生活の中で、 協働する楽しさを味わわせ、共に創る喜びや成功体験・達成感 につなげる。
		児童会活動の充実	なかよし班活動・共成会議など児童主体の活動などで、 一体感や連帯感 を味わわせる。

		多様な人とかかわりによる他者理解	地域人材や地域施設、行事など、多様な人とかかわる機会を意図的に設定する。 地域の一員としての自覚 をもたせられるように。
健やかな体の育成	中期目標		児童が自分の「心と体の元気」を感じながら、体力向上と健康について考え、実践する態度を育む。
	短期目標	具体的方策	指導内容・評価項目
	運動する楽しさの実感と日常的な運動遊びの充実及び、体力向上につながる体育授業改善	運動遊びの充実	外遊びの充実。遊びを紹介する。クラス遊びなどを取り入れる。共成サーキットなどの体づくりの帯取組
		体育の授業改善	体育講師との連携、ミニ研修等を効果的に活用し、専門性を高めた指導を行う。
		元気アップガイドブックの活用	授業の基礎運動の中で、 元気アップガイドブック の内容を意識した体づくり運動を行う。
		児童主催の取組	児童の委員会主催の運動遊び（共成ギネス）を推進。
	望ましい生活習慣と健康な体をつくるための実践的態度の育成	GM60の推進	昭島市で取り組んでいる GM60の取組 を積極的に進め、その効果について還元し、啓発を図る。
		食育教育の充実	栄養士やGTと連携した食育や好き嫌いをなくす指導各教科・領域と関連させて食育を推進する。
		安全指導の充実	安全プログラムを活用し、生活安全・交通安全・災害安全を年間計画的にそって指導。
	しなやかで折れない心（レジリエンス）の醸成	危険回避能力の向上	けがをしない、事故に合わない、災害時の安全確保児童自ら安全な行動ができるように。
ハピネス・マインド		「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「自分らしく」の ハピネス・マインド で生活できるよう意識づける。	
心のもち方指導		ストレスを軽減する対処法や、ストレスをパワーに変えるスキル、 心のもち方などを学ぶ機会 をつくる。	
	自尊感情を高める	道徳授業や、SGE エクササイズなどを通して、「ありのまま」を自己承認して、 自分の良さを理解・実感する力 を高める。	
輝く未来に向かって	中期目標		認め合いのある温かな集団の中で、児童が自己の良さを実感し、自己決定しながら、「なりたい自分」を目指す学校を創る。
	短期目標	具体的方策	指導内容・評価項目
	児童が主体性に学校や学級をよりよくしようとする力の育成	一人一人の活躍の場	学級、授業、行事など、一人一人が活躍できる場をつくり、 役に立つ喜びや、自己有用感や自信を高める。
		学級会活動の充実	全体計画に基づいた指導、係活動・話し合い活動の充実。 学級活動の指導教本（緑の本） を活用する。
		主体性を実感できる行事	「何のための行事か。」ねらいを明確にして、児童の思いや挑戦を形にする。 児童が自分たちで創り上げた、本気で取り組んだ実感と達成感のある学校行事 をつくる。
		共成会議や実行委員会	児童会活動のねらいに沿って、 児童が自分たちでより良い学校を創っているのだという実感 をもたせる。 一人一役など、多くの児童の活躍の機会をつくる。
温かく、共感的な人間関係に	学級ルール・規律の徹底	何のためにルールや規律があるのか、児童に考えさせる機会をもち、 自分たちで守ろうという意識 をもたせる。	

支えられた望ましい学級集団づくり	安心して挑戦できる学級・学年風土	学級・学年・学校が全ての児童にとっての「安心基地」になるよう、児童に寄り添い、児童の困難を代弁したり、つないだりする。 失敗を笑わない、挑戦できる学級風土 をつくる。
	2回の Web-QU の結果活用	講師を招いて QU の結果分析をより良い学級集団づくりに活かす。気になる児童について QU 結果から、効果的な対応法を見出し、全校で共通理解し、指導に役立てる。
	SGE、SST、P・A の活用	学級活動や学級指導などの場で、児童の実態に応じた SGE、SST や P・A を取り入れる。教員が互いに具体的実践例を発信し、共有する。
ポジティブマインドでチャレンジしようとする意欲を高める。	キャリア教育	日常的に、児童の振り返りから、成長したことについて 機を逃さず、評価し、伝える 。キャリアアルバムの活用。
	教員の前向きな言葉かけ	プラス思考の言葉が飛び交う教室づくり 。スモールステップでの成功を積み重ね、その都度価値付ける。
	成功体験の積み上げ	ちょっと頑張ればできそうな目標を設定させ、チャレンジを促し、その チャレンジを価値付け、小さな成功体験を積ませる 。その積み重ねで、 自信をもたせる 。
	主体的な行動を促す働きかけと環境整備	児童がリーダーシップ・フォロワーシップをもち、主体的に行動できるようにするために、児童理解に基づいて、きめ細やかな事前準備と環境を整える。 (その気にさせる)

7 共成小学校の教職員としての姿勢

教職員も、児童も、保護者も、地域も「共成小大好き」「共成小にかかわってよかった」と思える学校を一人一人が当事者意識をもって、学校を運営していきましょう。



(1) 教師として大切にしてほしい心構え(児童の自律性と協働性を育てるために)

① 児童との毎日を楽しむ

「児童との毎日を楽しむ」ことを意識して、教師として、自分ができるようになったことに目を向けていくと心に余裕がもてます。そうすると、児童のこともできるようになったことに目を向けられます。

② 「みんな一緒」を求めない

「みんな一緒」の世界では、その場面や分野で「得意な子」と「得意じゃない子」の二つに分けられてしまいます。「得意じゃない子」にとっては辛くなります。「みんな違う」ことが大切にされている場だと、周り自分を比べず自分らしさを発揮できます。

③ 児童を強引に「変えよう」としない。(自分で気付かせる)

「こんな力を付けたい」を追い求めすぎると、自分の思うように児童をコントロールしようとしてしまいます。それがうまくいかないとイライラしたり、ストレスをためたり、児童に責任転嫁してしまうことになります。「自分の思うように変えよう」としないことは、自律性と協働性を育てる教師の土台となる考え方です。そういった環境でこそ、児童は安心して力を発揮し、成長します。

④ 上手な叱り方を。 **その行為を叱る。(一つに絞ってシンプルに) 一貫した叱る基準を明確に示す。**

安全にかかわるはずらや行為、他の人を馬鹿にする(人権を無視)こと、他の人に迷惑をかけることこのことは、許さないと初めに示す。

「どうしたの?」「どうすればよかったのかなあ」と現状を聞き、原因を一緒に分析し、次の方向性を児童自身が考えられるようにすれば、叱る必要はないのではないのでしょうか。

「児童が自ら変わる」きっかけをつくりましょう。児童の心を動かす⇒行動が変わる。

⑤ 「ありがとう」を伝える。

教師自身が心の底から「有難いなあ」と思う気持ちを素直に発することを大切にしましょう。教師の姿を見て、「ありがとう」を伝える児童が増え、教室全体に広がっていきます。

⑥ 自分的一天をデザインし、最後に振り返る。

振り返りをせずに毎日過ごしていると「何となく」の感覚で行動することが増えてしまいます。振り返ることとて、「ここがうまくいっていないなあ。次はこうしてみよう」と考えられます。振り返りを記録することで、思考が整理でき、記録にもなります。教師こそ、振り返りが大切です。

(2) 温かな教育をする教師

私たちは、「人」を育てる仕事をしています。目の前にいる児童は、未完成な人として存在し、間違いや失敗を繰り返しています。その失敗を失敗で終わらせるのではなく、人としての成長にどうつなげていくのかが教育者としての価値です。ですから、児童の前に立つ教育者には、何より「温かさ」が必要です。「温かな愛」をもって児童の前に立ってください。児童の心に届く指導をお願いします。

(3) 子供を第一に考えて思考する教師

常に「目の前の児童にとってどうか、理解できたのか」を視点に考えてください。どんなに児童のことを思っている言動であっても、児童自身が理解できないのであれば、折角の思いは伝わりません。

誠実に、児童の思いを聞き、児童と共に歩んでいく教師であってください。そういう教師は、児童に信頼されます。だから、保護者にも信頼されます。

(4) 共成小の教育に貢献する教師（最前線にいるラストマンとして）

共成小学校の教育活動の最前線にいて、日々児童に指導しているのは、先生方です。先生方の危機管理の感覚や判断（ヒヤリ・ハットを意識して）が重要です。管理職の指示を待つことが必要なこともありますが、経営方針に沿ってご自身で判断し教育を行うラストマンとしての姿や姿勢に期待します。

学校経営や学校運営に積極的に参画し、共成小の教育に貢献する教師を目指してください。

(5) マネジメントできる教師（カリキュラム・マネジメントや自己の働き方）

ねらいを明確にして、効率的な学習になるように、効率的で効果的な授業運営をしていきましょう。

1時間のタイムマネジメントも大切です。

ご家庭の事情やライフスタイルもそれぞれです。ご自身の一日をデザインし、働き方をマネジメントしていきましょう。だれか、モデルになる人を見付けるとよいです。

(6) 危機を感じるアンテナを高く張り、ご自身が最大の危機管理人となりましょう。

常に最悪を想定し、（深刻にならず、真剣に）危険を未然に防ぐ段取りを考えることが最大の危機管理（リスクマネジメント）です。

(7) 大人の言動が子供の手本

① 児童に「きまりを守ろう」と胸を張って指導できるよう、自らもきまりを守りましょう。

② 教職員の言葉こそ、最大の言語環境となることを意識しましょう。

③ 相手の立場に立って、理解に努めましょう。

④ 物を大切に扱い、よりよい環境づくりに努め、物や環境を介して人を大切にしましょう。

(8) サービスの厳正

① 思いや考えを話し合える教職員相互の雰囲気継続しましょう。

② 学校の個人情報、児童と保護者等のものであり、厳正に扱きましょう。

③ 暴力・暴言は、再生産されるものと肝に銘じ、心の通う指導に努めましょう。

④ 備品・消耗品の費用対効果を考え、予算を有効に、適正に活用しましょう。

